

令和元年度 プロジェクト研究評価報告

プロジェクト研究課題名	主要国の農業政策・貿易政策の変化及びそれを踏まえた中長期的な世界食料需給に関する研究
研究実施期間	令和元年度 ～ 令和3年度
プロジェクト研究の概要	海外における主要な国・地域の農業動向と関連政策に関する情報収集と分析は、我が国の政策検討における基礎的な資料として、重要な意義を持っている。また、国際貿易に関しては、先進国と開発途上国の間の対立が深刻化して WTO 貿易交渉が停滞する一方で、地域貿易協定が増加するなど、制度的枠組みが複雑化している。加えて、近年の米国による単独行動主義的な外交通商政策が、米中間をはじめ世界貿易全体に影響を与えてきている。 食料需給では、世界の食料市場の規模が拡大する状況下で、国際的なフードシステムの変化が生じている。特に、経済発展と人口増加を背景に開発途上国を中心に食料需要が増加する一方で、南米や旧ソ連諸国など新興の輸出国からの食料供給が顕著に増加するという構造変化が注目される。さらに、より長期的な期間に着目すると、気候変動や、土地・水資源、エネルギー等の供給制約が、食料需給に与える影響が懸念される。 これまで農林水産政策研究所では、農業政策立案の観点から重要となる国・地域を対象とした農業情勢と関連政策の分析と国際食料需給の分析を実施してきた。この研究プロジェクトでも、これまでに蓄積された知見を活用しながら、世界の主要国・地域の農業動向と関連政策の調査研究を行う。そして、国・地域別の知見と定量的な食料需給予測の連携を深め、よりの確な需給見通しの策定に努める。 主要国の農業動向・関連政策の研究においては、農業政策把握の重要性、国際食料市場への影響の大きさ、世界的な食料問題における重要性等の観点から、研究対象国・地域を選定し、地域別チームを組織して、各国・地域の農業・貿易動向況と関連政策、主要農産物の需給等について最新の動向を把握する。 さらに、多くの国々が共通した課題に直面するようになっている現状を踏まえ、複数国横断的な分析を行う。具体的には、以下のテーマを取り上げる。 1) 農村振興政策に関する研究 我が国の農村地域では、高齢化や人口減少が都市部に先駆けて進行しており、農村振興は一層重視されるようになっている。一方、海外でも、農村振興に関連した政策を共通農業政策の第二の柱として実施している EUをはじめ、多くの国が農村振興に取り組んでいる。こうした海外の農村振興政策の施策内容や背景について情報を収集・整理し、比較・検討を行う。 2) 食料貿易に関する研究

	食料の国際的フードシステムが変化する中で、我が国からの食品輸出市場としても関心の高まる東アジア・東南アジア地域の諸国を主な対象として、国際貿易統計を用いた各種の貿易指数分析を適用して、食料の貿易の構造変化とその含意を明らかにする。 世界食料需給分析においては、平成20年度以来、農林水産政策研究所で開発・利用している「世界食料需給モデル」の更新・改良を継続するとともに、上記の「主要国農業政策・貿易政策研究」で得られる各国の農業・農政に関する知見も併せて活用し、10年後の世界の食料需給見通しを行う。
評 価 結 果 ○評価会議名及び開催日 「主要国の農業政策・貿易政策の変化及びそれを踏まえた中長期的な世界食料需給に関する研究」 評価委員会 令和2年3月（書面審査） ○評価委員名 坪田 邦夫 委員 （日本農業研究所・客員研究員） 金田 憲和 委員 （東京農業大学国際食料情報学部・教授） 石井 圭一 委員 （東北大学大学院農学研究科・准教授） ○評価基準 ・社会的ニーズへの対応 S:非常に大きな意義がある A:大きな意義がある B:意義がある C:意義が小さい D:意義は見出しがたい ・政策の企画・立案への貢献 S:非常に大きな貢献が見込める A:大きな貢献が見込める	（小課題1）主要国農業政策・貿易政策研究 【評価項目ごとの評価】（ ）内は3名の委員の投票数を示す。 ○ 社会的ニーズへの対応 S:非常に大きな意義がある（2） A:大きな意義がある（1） ○ 政策の企画・立案への貢献 S:非常に大きな貢献が見込める（1） A:大きな貢献が見込める（2） ○ 学術面からみた研究成果の評価 A:学術的に高く評価できる（1） B:学術的に評価できる（2） ○ 研究計画の妥当性 A:妥当である（3） ○ 研究資源・実施体制の妥当性 A:妥当である（2） B:概ね妥当である（1） ○ 研究目標の達成度 A:達成度は高い（1） B:概ね達成している（2） 【総合評価】 1:順調に進行しており、問題はない（2） 2:ほぼ順調であるが、改善の余地がある（1） 【評価委員からの主な意見】 ○ プロジェクトの研究目的や研究の対象、研究計画は我が国食料農業や農政への貢献を念頭に置いた妥当なものとなっている。内容も、主要国レポートを中心に、

B.貢献が見込める C.貢献が小さい D.貢献は見込みがたい ・ 学術面からみた研究成果の評価 S.学術的に非常に高く評価できる A.学術的に高く評価できる B.学術的に評価できる C.学術的な評価はやや低い D.学術的評価は低い ・ 研究計画の妥当性 S.非常に良い A.妥当である B.概ね妥当である C.やや妥当でない D.見直しが必要である ・ 研究資源・実施体制の妥当性 S.非常に良い A.妥当である B.概ね妥当である C.やや妥当でない D.見直しが必要である ・ 研究目標の達成度 S.達成度は非常に高い A.達成度は高い B.概ね達成している C.達成度はやや低い D.達成度は低い ・ 総合評価 1.順調に進行しており、問題はない 2.ほぼ順調であるが、改善の余地がある 3.計画等を変更する必要	CAP 改革や BREXIT の行方、米中摩擦とその影響、ロシアの増産政策など今後世界に大きな影響を持つとみられる重要課題に取り組んでいるほか、農村地域振興政策も取り上げ横断的研究とのシナジーを図ろうとする努力がみられる。この横断的研究のテーマは、少子高齢化と地域経済の低迷に直面する我が国農村の再活性化対策に有益な示唆を与えることが期待される。ただ、初年度ということもあり、各レポートの中には対象国の農業農政の概要や主要対象テーマの紹介・整理など、まだ研究の入り口にとどまっているものも散見される。また、全体のバランスから見ると、戦略的に重要なアジア地域特に ASEAN やインドの研究が手薄になった感がある。農産物輸出や食品サプライチェーン、感染症対策といった面からも重要な地域である。充実を望みたい。 ○ 政策情報の提供や我が国政策立案への貢献を念頭に置いた研究が中心なので、理論面で必ずしも新規性や創造性は高くないが、幅広く主要国の政策動向や食料情報を提供することで、国内の学術研究に貢献している。農村振興政策の国際的横断的比較研究は概念や分類を整理し各国の違いに理論づけがされることを期待。 ○ 米国、EU、中国、ロシアなどの主要国研究には進展が見られるが、初年度でもあり対象国農業農政の概観や近況の把握にとどまっているケースも多い。今後さらに内容に立ち入った分析が進むことを期待。 ○ 各国の農業政策・貿易政策の動向についての情報の蓄積と分析は非常に重要であり、組織的に取り組まれていることを高く評価したい。また、各国横断的な分析として行われる、農村振興政策に関する研究および食料貿易に関する研究も、多くの研究者を擁する組織の強みを活かすものであり、農業政策および食料貿易を俯瞰的に理解するための視座を提供できている。研究成果も数多く公表され、様々に活用されている。 ○ 本年度開始した農村振興政策に関する横断的研究の今後の成果について期待したい。非常に範囲の広い政策体系であるため、各国比較の論点を絞り込むことはたやすくはないが、政策企画上の貢献は大きいと思われる。引き続き、ワークショップなどを開催しながら
---	--

がある 4.中止すべきである	ら意見交換やアイデアの発掘の機会を活用していてほしい。なお、農業構造政策との位置関係にも注目すると良いではなかろうか。アジアにおいて高まる加工食品需要の下で統計もとにした傾向分析は重要である。農産物貿易の活発化とともにアジア食品産業がいかなる変貌過程にあるのか、解明のカギを捕まえてほしい。 （小課題２）世界食料需給分析 【評価項目ごとの評価】（ ）内は３名の委員の投票数を示す。 ○ 社会的ニーズへの対応 S:非常に大きな意義がある（２） A:大きな意義がある（１） ○ 政策の企画・立案への貢献 S:非常に大きな貢献が見込める（１） A:大きな貢献が見込める（２） ○ 学術面からみた研究成果の評価 A:学術的に高く評価できる（１） B:学術的に評価できる（２） ○ 研究計画の妥当性 A:妥当である（２） B:概ね妥当である（１） ○ 研究資源・実施体制の妥当性 A:妥当である（２） B:概ね妥当である（１） ○ 研究目標の達成度 A:達成度は高い（２） B:概ね達成している（１） 【総合評価】 1:順調に進行しており、問題はない（２） 2:ほぼ順調であるが、改善の余地がある（１） 【評価委員からの主な意見】 ○ 最近新型コロナウイルス感染症の爆発的拡大や米中貿易摩擦など、予期せぬ事態が頻発している。また、中期的には高齢化や温暖化など世界食料需給の基本
------------------------------	---

	構造を変える変化が起きつつある。こうした時こそ、世界食料需給モデルによるシナリオ分析や感応度分析の出番である。ただ、それにはパラメーター等の操作によるモデル試算だけでなく、十分な情報収集と他分野専門家を含めた総合的検証が不可欠である。現段階では事態の成り行きは不透明であるが、国内外研究者や民間の協力を得て、早急に情報収集と研究体制を整備し、より厚みのあるいくつかの見通しが示されることを期待する。 ○ 需給モデルについては、今回間に合わなかった新型コロナウイルスの影響の検討・試算を期待したい。また、世界的な高齢化や食料摂取の充足傾向、地球温暖化などの影響についても検討を進めてほしい。 ○ 我が国独自の世界食料需給モデルを開発して予測を行うことは、行政・研究両面で大きな価値があり、長年の優れた研究に継続的に取り組まれていることを高く評価したい。通常の 10 年後の予測分析の他に、アフリカ豚熱に関するシナリオ分析も行われていることも評価できる。 全体に、研究は順調に進行していると評価できる。 ○ 政策研のルーティーン研究として大変重要である。主要国の農業・農政事情を念頭に置きつつわかりやすく予測結果を解釈しており、普及性の高い研究成果である。また、中国におけるアフリカ豚熱の貿易に与える影響はたいへん示唆的であり、関心と呼ぶところであろう。現在、新型コロナウイルスが世界的に蔓延している。動向編で取り扱ってみてほしいし、生産、物流、消費に与える影響について多角的に分析し、非常事態を加えたシナリオ分析手法の開発につなげてほしい。
今 後 の 対 応 方 針	○ 下記の対応方針を踏まえて、引き続き主要国・地域の農業情勢及び、関連政策の調査研究を実施する。 ○ 社会・行政のニーズに対応して、新型コロナウイルス感染拡大がもたらしている多大な影響を十分に踏まえながら各国・地域の農業・貿易状況と関連政策、主要農産物の需給等についての最新の動向把握・分析につとめ、国内・対外政策の検討のための情報提供を継続する。 ○ 各国横断的な比較分析として、農村振興政策に関する

	研究および東・東南アジア諸国を対象として食料貿易に関する研究を継続して実施する。 ○ 需給モデルと地域研究とを連携させた食料需給見通しの発表を継続するとともに、新型コロナウイルス感染拡大等主要なトピックスを動向編で取り上げる。また、新型コロナウイルス関連の影響として、経済停滞を受けたマクロ指標の変更等によるシナリオ分析を必要に応じて実施する。 ○ プロジェクト研究資料の作成や学会発表、成果報告会による公開等を通じて、研究成果を幅広く社会に発信する。
--	---